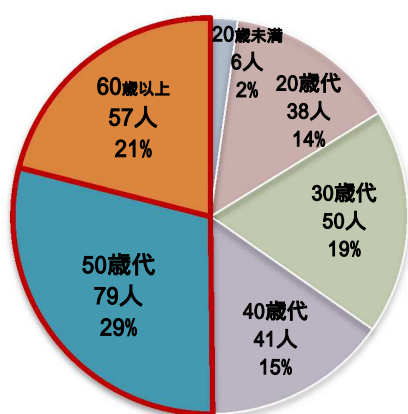


50歳以上の労働者の 労働災害防止対策を推進しましょう

当署管内において、平成26年に発生した休業4日以上労働災害による死傷者の半数を、50歳以上の労働者が占めていることから、高年齢労働者に配慮した職場改善活動を推進しましょう。

(労働災害防止対策では、50歳以上の労働者を「高年齢労働者」と定義しています)

1 労働災害の発生状況(平成26年)



全被災者271人のうち、50歳以上の被災者は136人(50.2%)となっている。

業種別で割合が高いのは、製造業(50人中30人(60.0%))及び清掃業(14人中10人(71.4%))となっている。

また、50歳以上の被災者の58.1%が、骨折等で1か月以上の長期休業を要している。

2 高年齢労働者の身体機能の特徴





- (1) 20歳~24歳ないし最高期を100とした55歳~59歳の機能水準は、平衡機能48、薄明順応36、視力63、伸脚力63、瞬発反応71、運動調整能59などの大きな低下が見られる((公財)労働科学研究所調べ)
- (2) 筋力における握力の低下が少ない一方、脚筋力では20歳に比べ50歳では約4割低下するなど、特に下半身での低下が強く見られる(「新日本人の体力標準値」(不昧堂出版))

3 高年齢労働者の災害を防止するための重点事項

- (1) つまづきや滑りの原因の解消又は表示等による転倒災害の防止
- (2) 墜落のおそれのある箇所への手すり等の設置による墜落災害の防止
- (3) 重量物の持ち上げ等の負荷が掛かる作業の低減等による腰痛の予防

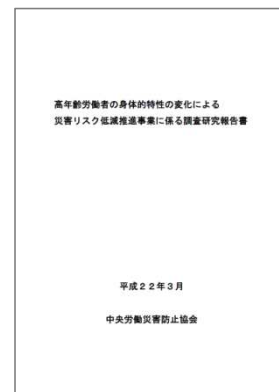
問合せ先：青森労働基準監督署(電話：017-734-4444)
〒030-0861 青森市長島一丁目3-5 青森第二合同庁舎

4 高齢労働者に配慮した職場改善事例

改善前	改善後
	
<p>通路のドアを開くと床面に約 1 cm の段差があり、通行時に躓いて転倒するおそれがあった。</p>	<p>段差に三角スロープを設置し、スロープを黄色と黒の縞模様に塗装し、床面（深緑色）と区別した。</p>
	
<p>倉庫内の保管棚には、天井直下まで包装資材が積み上げられていたが、倉庫内が狭く昇降階段は設置されておらず、高所からの取り出しは、脚立を使用して行っていた。</p>	<p>転落防止柵のついた安定性のある昇降階段のついた移動式作業台を設置した。</p>

5 参考資料

厚生労働省のウェブサイトから次のパンフレット等がダウンロードできますので、ご活用ください。



厚生労働省 安全衛生関係リーフレット等一覧

検索

ページ内の「資料・教材」の項目に掲載されています。